

Title	癌についての疑問に，わかりやすくお答えします
Author(s)	薄金，眞雄
Citation	癌と人. 9 P.21-P.22
Issue Date	1982-03-15
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/24119">http://hdl.handle.net/11094/24119</a>
DOI	
rights	
Note	

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

# 癌についての疑問に、わかりやすくお答えします

薄 金 眞 雄\*

## 問1. 癌とは？

癌とは、異常な細胞が、無制限に、無秩序に増える病気です。もし、放置すれば、死ぬ原因となります。

## 問2. 癌細胞は、正常細胞と、どのように違うのですか？

正常細胞は、目的をもって増殖します。例えば、正常組織を作ったり、傷ついた組織を治したりする為に働きます。一方、癌細胞は、目的もなく増殖します。そして正常細胞と置き代わったり、破壊したりします。もし放置すれば、体の他の部分に拡がります。

## 問3. 癌には、種類がありますか？

あります。癌は、体のいろんな組織に発生し、その速度もいろいろです。治療によっても変化します。しかし、もしそのままにしておけば、癌の発育や拡がり方は似ているのです。

## 問4. 癌はどのように拡がりますか？

癌細胞は、組織の中で増殖します。そしてリンパ管、血管に侵入し、体の他の部分に運ばれます。この拡がり方を転移といいます。

## 問5. リンパ管とは？

リンパとは、透明な液体で、組織の中にあって集められ、リンパ管に入り、最終的には血液の中に入ります。

## 問6. 癌の発育速度は？

はっきり決っていません。ある種類の癌は、数週間で倍の大きさになり、他の癌では、数年かかったりします。

## 問7. 白血病は癌ですか？

そうです。白血球の発育と増殖が、無制限に無秩序に起る病気です。

## 問8. 腫瘍とは？

腫瘍とは、組織の新たな増殖によって生じた、腫れ物、または、塊をいいます。

## 問9. 腫瘍はすべて、癌ですか？

いいえ、腫瘍には二種類があります。一つは良性（稀にですが、生命をおびやかすものもあります）であり、もう一つは、悪性です。

## 問10. 良性腫瘍と悪性腫瘍との違いは、何ですか？

良性腫瘍は、ある一定以上には大きくなりませんし、体の他の部分へ拡がりません。悪性腫瘍（癌）は、増殖し続けて、もし治療しなければ、体の他の部分に拡がります。

## 問11. 気付かずして、癌に侵されていることは？

あります。癌が、増殖あるいは組織を侵すまでは、一般に、症状は現われません。しかし、症状の現われる前に、検査によって癌を発見することが出来ます。

## 問12. なぜ癌が発生するのですか？

誰も知りません。事実、大部分の癌の原因は、解っていません。しかし、いくつかの癌の原因については、はっきりしてきています。過度の日光浴、過剰の放射線照射、喫煙、ある種の化学物質との接触などです。

## 問13. 癌に感染したり、癌が伝染したりしますか？

いいえ。全く、ありません。

## 問14. 喫煙は、肺癌の原因ですか？

一般に、喫煙は肺癌の大きな原因と考えられています。例えば、喫煙者の肺癌死亡率は、喫煙していない人に比べ、10倍も高いのです。特に1日40本以上吸う人のそれは、20倍にもなります。また、喫煙者は、舌癌、喉頭癌、膀胱癌になりやすいといわ

\* 大阪大学助手（微生物病研究所附属病院外科）

れています。

問15. “フィルター” たばこは、肺癌を防ぎますか？

今日、たばこは、20年前よりもタール、ニコチンが、少なくなっています。そしてニコチンやタールが多ければ多いほど、肺癌発生の危険度は高いと推定されます。しかし、安全なたばこなどというものはありません。最上の“フィルター”は喫煙しないことです。

問16. パイプや葉巻たばこは如何？

紙巻たばこ喫煙者に比較して、肺癌の発生が、相当低いようです。しかし、舌癌、喉頭癌、膀胱癌は同様にみられます。

問17. 環境の汚染した都会に住んでいると、癌になりやすいですか？

一般に、環境汚染地域では、危険性がより大きいといえます。肺癌に関する限り、死亡率は市街地の方が、やや高いのです。けれども、その差は、喫煙者達におけるよりも、かなり小さいようです。

問18. 大酒飲みは、癌にかかりやすいですか？

大酒飲みが、喫煙者であれば、舌癌、喉頭癌になる危険性が著しく高くなります。

問19. 打ち身や怪我によって、癌が発生しますか？

一時的な傷が、癌の原因となるかどうかは、わかっていません。

問20. 食物が、癌の原因となりますか？

いいえ。しかし、食事と癌との関連性については、研究が続けられています。例えば、日本人には胃癌が多いのに、アメリカに住む日本人には、なぜ少ないのかという疑問があります。くん製食品——特に薬品で加工されたもの——が、原因として調査されています。

問21. 癌は遺伝ですか？

ごく稀な癌が遺伝します。大部分の癌は違います。しかし、これらの癌のうち“家族性傾向”のあるものとして、知られている癌があります。これは、ある家系に著しく高い頻度で、癌が発生する傾向——“癌の好発家系”のことです。この“癌の好発

家系”は、乳癌、大腸癌、直腸癌、胃癌、前立腺癌、肺癌、白血病に見られます。それ故に、家系の一人がこれらの癌にかかったら、その家系の人達は、予防的に癌の検診を受けることが勧められています。ここで述べている家系は、両親、子供、従兄弟、叔父、叔母、祖父母等を含みます。

問22. 日光浴で皮膚癌になりますか？

太陽の紫外線を長時間、浴び過ぎると——特に色白の人——皮膚癌が発生します。

問23. じは、直腸癌の一つの徴ですか？

いいえ。しかし、じの出血は、癌の警戒サインの一つになります。どんな出血でも、医者の注意を引かないものではありません。

問24. 癌に関心を持つことが、癌を治療するうえで、影響をもたらしますか？

はい、影響します。もし自分に癌があるかどうか知るのを恐れるなら、医者へ行くのが遅れ、適切な治療が受けられなくなるからです。心配は、常に健康を維持する為の大切な要因の一つです。1年に一度の“癌の検診”が、“癌の心配”を取り除いてくれます。

問25. 元気なのに、なぜ、癌の健康診断を受けねばならないのでしょうか？

早期の癌は、一見、健康と見える状態の時に存在するのです。一般に、痛みは、後になるまで、また治療出来ない状態になるまで、現われてきません。そこで、たとえ元気と思われても、定期的な癌の検診を受けるべきです。

問26. 放射線は、癌の原因となりますか？

はい、そうです。しかし、それが医科や歯科で適切に使われる時には、その限りではありません。X線や原子力副産物による過剰被曝は、癌——特に白血病——を発生させます。

問27. 癌にかからない人はありませんか？

いいえ、誰もありません。癌は、国境、国籍、民族、皮膚の色に関係がないのです。

以上、“癌とは何か？”“癌の原因は何か？”について、わかりやすく述べてみました。